

文化財担当者研修のすすめ

～よりよい文化財行政のために～



写真：在りし日の旧研修棟と
現在の研究所仮庁舎多目的利用室
(平成 30 年春開庁をめざして新庁舎を建設中)



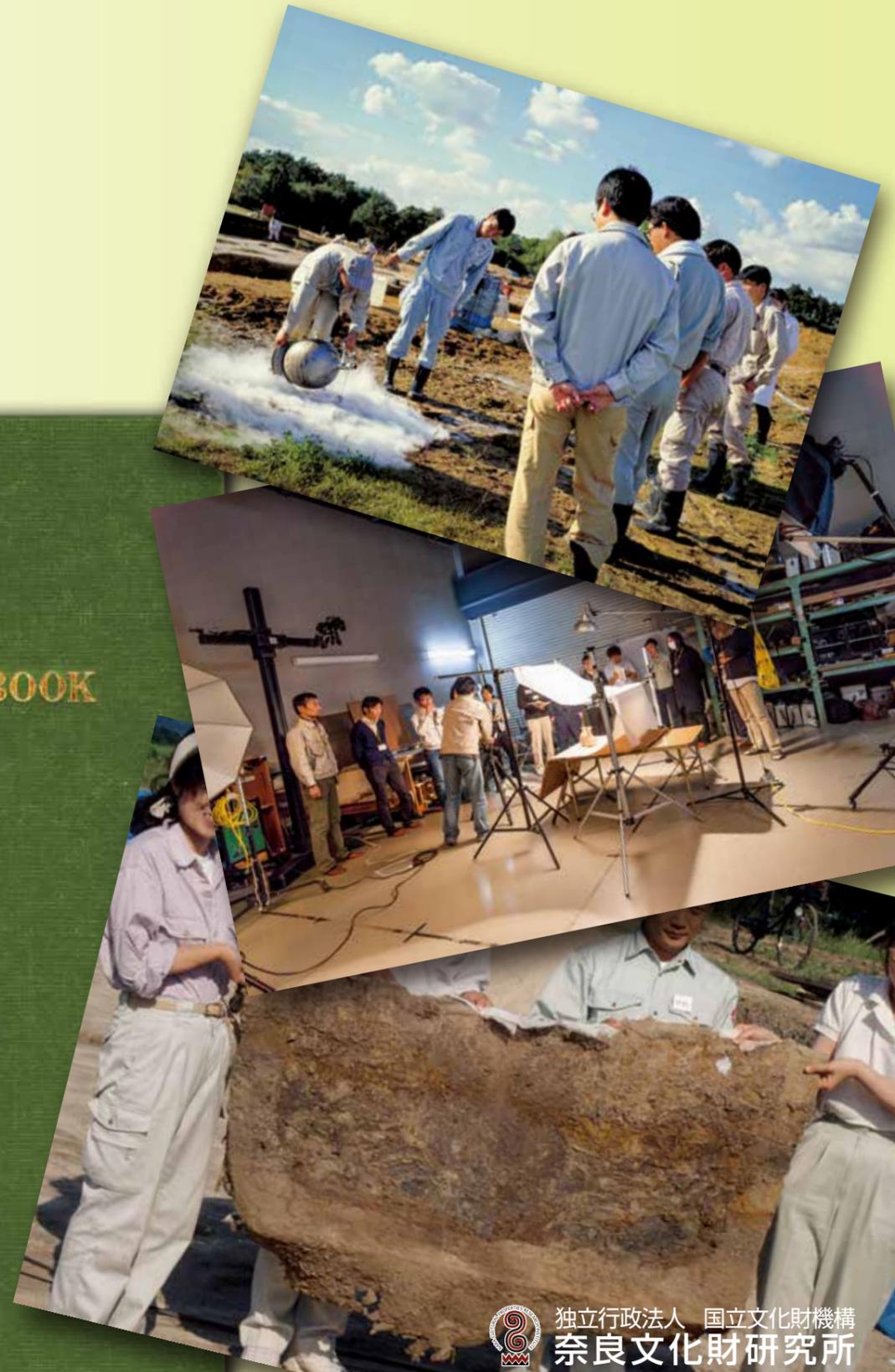
平成28年度 文化財担当者研修課程一覧(予定)

区 分	専 門 研 修												
課 程	建築調査課程	遺構調査課程	古文書・歴史資料の取扱いに関する研修	古文書・歴史資料の取扱いに関する研修	人骨・動物骨の調査方法、整理作業、報告書作成	地層・土層・土壌等に関する基礎課程	遺跡・遺物の調査方法、整理作業、報告書作成	遺跡・遺物の調査方法、整理作業、報告書作成	遺跡・遺物の調査方法、整理作業、報告書作成	遺跡・遺物の調査方法、整理作業、報告書作成	遺跡・遺物の調査方法、整理作業、報告書作成	遺跡・遺物の調査方法、整理作業、報告書作成	遺跡・遺物の調査方法、整理作業、報告書作成
実 施 期 日	6月6日～6月10日	6月20日～6月24日	7月25日～7月29日	8月29日～9月2日	9月6日～9月9日	9月12日～9月16日	9月19日～9月23日	9月26日～9月30日	10月3日～10月7日	10月10日～10月14日	10月17日～10月21日	10月24日～10月28日	10月31日～11月4日
定 員	8～15名	8～15名	8～15名	8～15名	8～15名	8～15名	8～15名	5～10名	5～10名	8～15名	8～15名	8～15名	8～15名
対 象	地域の中核となる地方公共団体の文化財担当者(若しくはこれに準ずる者)	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
内 容	発掘調査で検出される建築遺構や出土建築部材に関する知識や発掘方法などについての研修。	古文書・歴史資料の調査・管理等に相当する立場にあるが、当該分野に関する専門的知識や発掘方法などについての研修。	出土した人骨や動物骨の調査方法、整理作業、報告書作成について、必要な専門的知識や技術的知識を習得することを目的とする研修。	遺跡等の発掘調査に必要とされる、地層・土層・土壌等に関する基礎的な専門知識・技術の習得を目指す。	遺跡・遺物の正確な記録とその保存活用手法として、GISやデータベースの利用、遺跡情報公開に関する知識の取得を目指す研修。	文化的景観の保護にこれらから取組む担当者対象に、文化的景観の歴史・概念、保護制度、調査手法及び保存計画立案等についての基礎知識を習得することを目的とする研修。	地層・土層・土壌等に関する基礎的な専門知識・技術の習得を目指す。	金属製品保存の最新調査法(土器・陶器)の調査法について、基礎的な知識や技術を習得するための研修。	文化財の記録・調査に必要とされる、写真・映像の撮影技術に関する知識や技術を習得するための研修。	文化財調査報告書等の作成に必要とされる、実務的な知識や技術を習得するための研修。	中近世城郭跡の調査方法と保存整備に関する知識や技術を習得するための研修。	史跡整備のための調査と保存整備に関する知識や技術を習得するための研修。	史跡整備のための調査と保存整備に関する知識や技術を習得するための研修。
申込締切予定日	平成28年 4月19日	平成28年 5月6日	平成28年 6月10日	平成28年 7月15日	平成28年 7月22日	平成28年 7月28日	平成28年 8月12日	平成28年 8月26日	平成28年 9月30日	平成28年 10月14日	平成28年 10月25日	平成28年 12月2日	平成28年 12月27日

※1 各研修はインターネットが利用可能です。
 ※2 募集は各都道府県及び政令指定都市教育委員会を通じて行われます。
 ※3 研修参加決定通知は研修開始日の約1ヶ月前に通知の予定です。
 ※4 文化財写真課程・報告書作成課程は総務課にて受講することができます。
 ※5 課程名については、変更する場合があります。

研修案内 URL <http://www.nabunken.go.jp/fukyu/kensyu.html>

SKETCH BOOK





特別史跡平城宮跡のかたわらに所在する奈良文化財研究所(通称:奈文研)は、国立博物館、東京文化財研究所とともに独立行政法人国立文化財機構を構成する、日本を代表する文化財関連の調査研究機関です。

昭和27年に設立された奈良国立文化財研究所を前身とし、「文化財行政に資する研究をおこなう」をモットーに、奈良県下の恵まれた歴史的環境に包まれながら、考古学、保存科学や年輪年代学などの考古科学、建造物、文化的景観、計測修景など、不動産文化財を中心とする文化財を対象とした最先端の調査と研究をおこなっています。

文化財担当者研修



昭和41年から文化財保護委員会(現・文化庁)と共催していた発掘調査研修がはじまりです。昭和49年からは奈文研に設置された埋蔵文化財センターが引き継いで開催してきました。現在は、奈文研の研究分野の広がり、行政が対応すべき文化財の多様化にともなって、埋蔵文化財ばかりでなく、古文書、災害痕跡、文化的景観などの研修もおこなう「文化財担当者研修」として実施しています。昭和49年から、平成27年までの累計受講者数は9146人。昨年度の受講者は171人で、99%の方々から、「有意義だった」、「役に立った」との御回答を受けています。

この研修は、文化庁とも連携しながら、全国の地方公共団体の文化財担当職員を受け入れ、最先端の研究にもとづく講義と実習を通じて受講者のスキルアップを図り、各地の文化財行政の足腰を強め、その一層の向上と充実につなげることを企図しています。また、開講課程や内容は随時変更し、その時々各地の地方公共団体が抱える課題に対応させています。講師は、奈文研の研究職員のほか、各分野での第一人者、時には文化庁文化財調査官が務めます。

研修後のアフターケアも万全で、課題や疑問に対しては、研修担当者・担当室が親身に対応いたします。また、同じ研修を受講したことをきっかけに、奈文研や同様の課題を抱える全国の担当職員との間にネットワークが生まれ、これを通じて、問題意識が共有され、課題の解消のヒントやアドバイス、ノウハウを得られることもしばしば。これも研修受講のメリットの1つです。



課程紹介



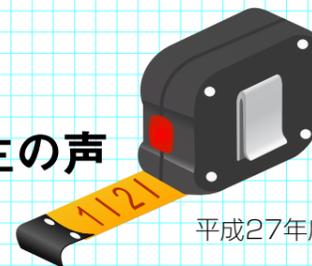
地質とは? 私たちが依って立つ大地は、地層や岩石、土壌などから成り立っています。両課程名にある「地質」とは、これらを全てまとめた呼び名です。埋蔵文化財担当者が調査対象とする遺跡や遺構、さらに遺物は、実は地質の一部を構成するものであり、極めて詳細な情報からなる、時・空間的に限定されたレンズ状層といえます。このため、地質から得られた情報は、当時の地形や環境、生態系や景観、年代を捉えるための手掛かりとなり、人間活動を解釈する重要な根拠となります。したがって、調査地やその周囲の地質からどのような情報を引き出せるかが、遺跡、遺構、遺物の性格や状態、それらの年代を捉える上で重要なポイントとなります。



両課程の内容・目的 「地質考古調査課程」では、地質に対する概念や見方、さらに試料の採取・解析法など地質情報の引き出し方を学び、埋蔵文化財の調査や保護に必要な地層、土壌、土層などに関する知識や技術の基礎を改めて整理、習得することを目指します。座学・現場見学・ディスカッションを織り交ぜて、基礎概論から先端成果まで、今後の調査の発展に役立つエッセンスを詰め込んだ研修課程です。一方、「地質・年代調査課程」は、発掘調査で「年代」を取り扱う際の「地質」の重要性から地質考古調査課程の内容を基礎としつつ、地質観察や年代試料の取り扱いなどの実習を盛り込み、現場に即した実践的なものの習得を目的とします。

両課程とも、様々な要素を講義に盛り込んだ密度の濃いものです。最終的に、文系出身の文化財担当者が発掘調査や年代測定を進める際に、いかに地質を生かすかの手掛かりとなる研修を目指します。また、両課程あわせての受講がより効果的です。

受講生の声



平成27年度文化財写真課程のみなさん

「講義で学んだ知識をすぐに実習で体得できるカリキュラムでしたので非常に有意義でした。」

「我流であったり、先輩からの教をそのまま無批判に継承していたりする写真技術について、その技術を現物に即して教えていただける研修内容で、目の覚めるような思いがした。」

「今回、2週間学んだ成果を少しでも館に持ち帰り、日頃の業務に役立てていきたいです。」

